

知ること

最後に、私たちが気づいたらいいかというところをお話ししようと思います。まず、知ることから始まる」と繰り返し言っています。た。ぜひいろんなことを知ってほしいと思います。今日私がお話したような現状もそうですし、実際にもう動いて成功している事例ですね。例えばエネルギーと環境という切り口でまちづくりや町おこしに成功している事例が日本でもいくつも出てきています。世界に目を広げればもっとたくさんあります。そういった事例を知ることでもたくさんの方が学べるし、自分たちで使っていくことができます。

行動すること

そして、行動すること。多分二つの面で行動する必要があります。ひとつは自分の暮らしの中での環境への影響をできるだけ小さくすることです。たとえば、歯を磨いているときに、水を出しっぱなしにするか、水を止めて、「コップで水をゆすぐか。これは

がそろそろ出てくると思います。

選挙のときに人を選ぶというのでもそうですが、買い物するときもそうです。買い物に行ったときにレジに並んでお金を払う前に自分のバスケットの中をもう一回見てください。「私はここに入っているものを応援していいのかな？ これを作っている会社を応援していいのかな？」とちょっと考えて下さい。買い物をするというのは投票なんですよ。いくら口で言っているもお金のほうに力があります。ですから本当に応援したいものを選んで欲しいなと思います。

伝えること

そして最後に伝えること、広げること。残念ながら一歩外に出るとまだ問題に「気がついていない、もしくは耳をふさぎたい」としている。地球温暖化を不都合な真実だと言おうとする人たちがいると思います。そういう人たちにいかに伝えていくか、いかに広げていくか。これは、私自身が色々考えてやってきました。これは、また後半のパネルディスカッションで具体的に話ができるかと思いますが、少し長くなってしまいました。以上です。

ありがとうございました。



岩手県葛巻町を新エネルギーの町へと牽引した  
ミスター新エネルギー 近藤勝義さん

私たちが決めることができます。何にも考えないでこれまで温暖化だ水不足だと言われていなかった時代は水を流しっぱなしにしていた。流しっぱなしとコップに水を汲んで歯磨きをするのと五、四リットルの水が違ってくるわけです。でも、このことを知ったんだしたら、今日から蛇口を止めよう。もしくは、買い物に行くとき、近くだったら歩いていく、自転車で行く。そういうアクションを自分で選ぶことができます。これまで温暖化がなかった時代には当然だった行動が、ちょっと待てよと、変えたら

てそんなに幸せが損なわれるわけではない。逆にプラスになることのほうが多かりたりすると私は思っています。

大きなビジョンを描くこと

もうひとつは、大きなビジョンを描くことです。私たちはどういつ世界に住みたいのか。どういつ日本にしたいのか。例えば二〇五〇年に日本がどういつ日本であって欲しいのか。二〇三〇年の稚内はどういつまちであって欲しいのか、それを描くことです。現状からスタートするだけではなくて、ああいつ町になりたい。ああいつ国にしたい。そのためにどういつしたらいいかを考える。そのビジョンを描くこと。そのビジョンを描ける人を選んでいくことです。日本ではあまり選挙のときに環境が話題になりません。これから変わっていくと思いますが、欧米では選挙のときに、候補者に同じアンケートを配って、その答えをインターネットで発表したりしています。その中にはかならず環境の項目が入っています。あなたは環境をどう考えるか、二酸化炭素をどうやって減らすつもりか。各候補者の答えを見て有権者は誰に投票するかを決めるわけです。日本でも、そういう動き



自然エネルギー最先端都市・稚内のキーとなる宗谷岬ウインドファームと大規模太陽光発電所

【枝廣 淳子(えだひろ) 講演者】

プロフィール

環境ジャーナリスト、翻訳家(詢イーズ代表、(詢)チェンジ・エージェンツ会長、NGO ジャパン・フォー・サステナビリティ (JFS) 共同代表、東京大学人工物工学研究センター客員研究員。

東京大学大学院教育心理学専攻修士課程修了。講演、執筆、翻訳等の活動を通じて「伝えること、つなげること」でうねりを広げつつ、行動変容と広げるしくみづくりを研究している。

著書

- 「入門！システム思考」講談社現代新書
- 「地球のためにわたしができること」(大和書房)
- 「なぜあの人の解決策はいつもうまくいくのか？」(東洋経済新報社)

翻訳書

- 「あなたにもすぐできるダイエットCOOL」(デービッド・ガーシオン著 PHP 研究所)
- 「地球の呼吸はいつ止まるのか？」(デビッド・ハウエル、キャロル・ナフル著 ウェッジ)
- 「不都合な真実」(アル・グア著 ランダムハウス講談社)